

広川 良子 選

特
選

さくらちりその向こうには校門だ

廿日市市立佐方小学校五年 山下 栞

【評】満開の桜が散ったあとの空間に通いなれた、見なれた校門が大きく現われた。いかにも学校の桜が散った実景実感。

夏空や一〇〇メートルを駆け抜ける

広島市立瀬野川中学校三年 松岡 潤也

【評】真夏の太陽のざらざら照りつける下、一気に百メートルを駆け抜けた若さと活力が感じられる。今年の猛暑は格別。

夏課題明日明日と積もる山

呉市立呉高等学校二年 福迫 将真

【評】夏休みの終わりころまで呑気に遊んでいたが、ふと先にのばしていた宿題に気づき、慌てふためいている自画像。

影濡れて屋根の向こうに見える虹

呉市立呉高等学校三年 川崎 真綾

【評】雨が止んだばかりの空を見上げると、大きな虹が屋根をつつみこむように輝やいている。雨上がりの不思議な光景。

水鉄砲相手の心ねらいうち

廿日市市立佐方小学校五年 中野 昇馬

【評】水鉄砲にも駆引きがあるのだ。油断も隙も無くたくらみ通りねらいうったとは気持ちよからう。

祖母の目を盗み三つ四つひなあられ

福山市立駅家中学校三年 藤原 愛理

夕立が赤子のように泣きわめく

大竹市立玖波中学校三年 金行 信一

ボランティア母と一緒に汗流し

府中町立府中小学校五年 品川 美幸

七五三なれないはかまはずかしい

広島市立中山小学校五年 木村 悠駕

炎天下勝利の校歌を響せる

県立尾道北高等学校一年 寅尾 遥翔

はやくして買ったアイスが溶けるから

福山市立東朋中学校三年 穂積あかり

さくらんぼ双子の姉妹育ってる

大竹市立大竹小学校六年 安川 巴

バチバチとせんこう花火たいけつだ

広島市立原南小学校五年 川本 柚美

飛びたいなつばめのように空高く

大竹市立大竹小学校四年 嶋田 光志

さざ波の白に隠れたミズクラゲ

県立尾道北高等学校一年 森数 俊輔

こいのぼり泳いでいると空が海

廿日市市立佐方小学校四年 西澤 沙耶

みつばちは黄色のもようかっこいい

廿日市市立佐方小学校四年 伊藤はびへ

甲虫自慢の角にてきはなし

三次市立作木小学校六年 堀江 陽仁

火のように真っ赤に咲くよ彼岸花

府中町立府中小学校三年 池田 美春

みのむしが木にぶらさがり落ちそうだ

府中町立府中小学校二年 清水 耀莉

カワセミがきれいな川をとびまわる

海田町立海田小学校五年 本郷 佑來

風鈴の音ペンに乗せ手紙書く

庄原市立庄原中学校三年 松代 笑佳

また一步僕の記録が残る冬

東広島市立向陽中学校三年 谷口 宙音

夏休みしわしわになる単語帳

呉市立呉高等学校三年 土手 美咲

七夕に願い叶わず追試あり

県立尾道北高等学校一年 角田 莉緒

広川 良子 選

特 選

大空に大あばれして鯉のぼり

広島市 五藤 京子

【評】 思い切り空を泳いでいる鯉幟。祝われて見上げている子どもの元気までが伝わってくる。あばれているが面白い。

流れ星神のおはじきはじまりぬ

広島市 梶原美江子

【評】 正に天帝のおはじき。流れ星のきらきらを神が細螺を撒き散らして遊ばれている。流れ星のこの上ない絶妙な詠いぶり。

寂しさに一灯欲しき木下闇

福山市 嶋山 洋子

【評】 霊気漂う深閑とした森。昼なお暗くひとりでは不気味である。こんな場所にこそ一灯欲しいとは、誰しもの思い。

溝浚へ軍手のままの指図の手

呉市 伊藤千賀子

【評】軍手を外す余裕もなく、長老の堂々とした差配に、滞りなく歩った
溝掃除。

今日はねと孫に教える盆の月

広島市 福永 將來

【評】どんなことを孫に伝えたのだろうか。きつとご先祖さまのこと。お
じいさんのこと。やさしい祖母の声が聞こえる。

入
選

永き日や還曆過ぎて弾くピアノ

広島市 百合香

線香花火八つもならば膝小僧

広島市 星加 鷹彦

花吹雪百一歳の店仕舞い

広島市 紗藍 愛

山からの水たつぷりと植田かな

広島市 松田 郁子

白寿たる傷痕軍人終戦日

広島市 松尾 信彦

父の日や呉れしTシャツ着ては脱ぎ

福山市 村上 仁

百歳の語り尽くせぬ震災忌

福山市 檜崎喜美枝

風鈴の音色さびしい南部鉄

広島市 吉川 徳子

山積みの蛸壺の待つ帰省かな

安芸郡府中町 大久保信子

菜を洗ふ指がたのしげ夏に入る

竹原市 前田美木枝

碁敵の一手に汗を絞りけり

広島市 徳毛 佳美

夏草の荒田に山羊の親子連

福山市 田口 公子

マスクして顔半分の自己紹介

広島市 山口 順子

風鈴に目覚めし午後のだるさかな

江田島市 通堂 泰子

海鳴りの余韻にすぎる暮の春

福山市 藤井 茂基

爪痕の余りに深き梅雨出水

東広島市 山田美佐子

一服に外すエプロン合歡の花

東広島市 森川 慶子

束の間の昼寝貪る厨妻

尾道市 浜本真知子

終の家に郭公一日鳴きにけり

福山市 高橋千恵子

写経足し苧殻一束焚きにけり

福山市 小林 洋子